

## 日経平均株価

4万9507円21銭

▲505円71銭(前日比)

## TOPIX

3383.66

▲26.77(前日比)

## 株式市場新聞

www.marketpress.jp

2025  
12/22

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



# 更なる対日圧力に備える レアアース輸出禁止の可能性



## レアアースは半導体材料に不可欠

レアアースは半導体材料に不可欠。中国産レアアースの輸出禁止は、日本企業に大きな影響を与える。日本企業は、レアアースの輸出禁止に備える必要がある。中国は、レアアースの輸出禁止を、日本企業に大きな影響を与える。日本企業は、レアアースの輸出禁止に備える必要がある。

「レアアース」は、レアメタルの一種で、ネオジム(Nd)やテルビウム(Tb)、ジスプロシウム(Dy)といった17種類の元素の総称。ジスプロシウムやテルビウムはEV(電気自動車)の駆動用のモーターに組み込まれる高性能磁石(ネオジム電池)の製造に不可欠で、その他にもパソコンやスマートフォンなどの電子機器などに不可欠な素材だ。

2012年の尖閣諸島の領有権争いで、中国がレアアースの輸出を禁止し、日本企業に大きな影響を与えた経緯がある。この教訓から、中国産レアアースの輸出に備える必要がある。

## 南鳥島沖で試験掘削開始

「台湾有事の際、集団自衛権の行使もあり得る」という高市早苗首相の発言を受けて、中国が日本への圧力を強めている。既に自国民へは日本への渡航自粛や中国から日本への航空機の減便に踏み切ったが、更に強力な対応措置を取るとなればレアアースの輸出禁止にまで踏み切る可能性がある。中国がこれまで他国への圧力を強めるなかで幾度となくレアアースを切り札に使ってきたが、日本はリスクを低減させるために様々な対策を進めており、改めて関連銘柄に注目したい。

レアアースへの依存度は現在では低下しているが、更なる依存度低下を進めるべく国立研究開発法人・海洋研究開発機構(JAMSTEC)は2026年1月に小笠原諸島・南鳥島(東京都・小笠原村)沖でレアアース試験掘削を始める予定。資源開発では石油資源開発(1662)や東洋エンジニアリング(6330)、古河機械金属(5715)などが注目されよう。また、レアアースの一種で、ネオジム磁石を使用せず入手が容易で安価なフェライト磁石を用いたEV駆動用モータを開発した安川電機(6507)なども再度注目の公算が高い。

### 日経平均の日足チャート



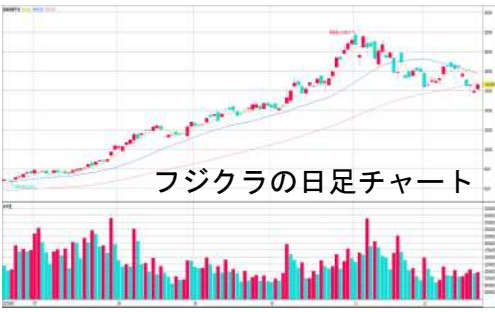
## フジクラが大幅続伸

みずほ証券目標株価引上げ

週明け8日、フジ

クラ(5803)が大幅続伸。みずほ証券が5日付で投資判断は「中立」ながら目標株価を1万2300円から1万8000円へ引き上げた。26年3月期予想は連結営業利益で会社側は1790億円で、同証券では1800億円から1950億円(前期比43・9%増)へ引き上げて

フジクラの日足チャート



## 倉元製作所ストップ高

倉元製作所(5216)はストップ高。5日引け後、12月15日を効力発生日とする新設分割により、設立する子会社KURAMOTOペ

## AI半導体買い進む

9日、KOKUSAI(6525)、デイスコ(6146)や東京エレクトロン(8035)などAI半導体関連銘柄が買い進まれた。トランプ米大統領が米エヌビディア製の人工知能(AI)半導体について、中国への輸出を許可する方針をS

ロボスカイトにプロブスカイト太陽電池事業についての権利義務を承継させると発表したことで、今後の本格的な事業拡大を期待した買いを集めた。ペロブスカイト太陽電池事業を子会社に移管することと、投資意向のある他企業との資本提携により、必要資金を調達することを目的としている。

## ココナラ自己株取得

ココナラ(4176)が反発。5日の取引終了後、自己株式取得枠の設定を発表した。上限30万株(発行済株式総数に対する割合1・3%)または1億円で取得期間は12月8日〜26年2月28日。株主価値向上に向けた包括的かつ継続的な株主還元策の一環。

## 学情39%営業増益

損益で1億円の黒字から2400万円の赤字(前の期5億1900万円の赤字)へ下方修正した。高付加価値製品の割合が予想を下回った。学情(2301)が大幅続伸。26年10月期は連結営業利益で前期比39・3%増の32億5000万円を見込んだ。国内の人材ビジネス市場は構造的な人手

## 正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は4週ぶりに反落しました。日経平均は前の週から1329円下落しています。AI関連への過剰投資懸念から米ハイテク株が軟調で、AI半導体関連株が売られ、18日には4万9000円を割り込む場面がありました。マイクハイテク株日銀の0・5%利上げは織り込んでいたことで、00円まで陰線です。時最高値を集中していたフットしている様日米中銀会合ベントを通過、から、全般は方展開になりそうです。フィジカルAIやロボティクスなど新しいテーマを中心に新年相場での活躍期待銘柄を探っていききたいと思います。花咲翁



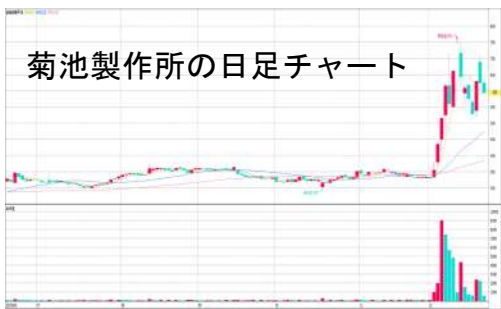
## サンバイオ承認変更

不足を背景に特に若手人材への需要が拡大しており、転職市場の拡大が続く。10日、サンバイオ(4592)が続騰。厚生労働省からアクーゴ脳内移植用注の製造販売承認事項一部変更が承認され、承認条件が変更されたと発表した。薬価収載の後、発売を予定。外傷性脳損傷に伴う慢性期の運動麻痺に対する治療薬として、世界に先駆け

て日本で初めて承認された世界初の脳を再生する治療薬。



菊池製作所の日足チャート



## ロボティク軒並S高

菊池製、ヒーハイス、黒田精など

10日、菊池製作所(34)やヒーハイスト(6433)黒田精工(772)の6)のフイジカルAI・ロボティクス関連の中小型株が軒並み高。菊池製はロボットの装置関連製品のサポート分野のスタートアップ企業への包括事業化支援を行い、ヒーハイストは産業機械用直

S 及び脳梗塞急性期)に関する開発・申請方針を発表した。RDS治療薬の開発を優先して進める方針で、日本国内では、2026年早期にグローバル第3相試験治験届の提出を予定しており、条件と期限付承認の申請、承認取得、その後の製品販売に向けた準備を継続して進めていくが織り込み済と見られた。

### ヘリオス織込み済み

ヘリオス(4593)が急反落。HLCM051(ARD

## エニカラー増額もS安

11日、ANYCOR(5032)がストップ安。26年4月期の業績予想について、連結営業利益で205億円(2億15億円から210億162億7900

35円から40円(前年同期32円50銭)へ引き上げている。

### アクリト合弁先大型契約

アクリト(4395)がストップ高。合弁契約先の米Forward Edgell AIが米ミサイル防衛局の上限1510億米ドルの大型契約で、プロジェクトの主導企業(元請け)に選定されたと発表した。

たが修正幅が小幅に留まっていることが悲観された。コマースとイベントを中心に当初計画を上回って推移、期末配当も

## 個人投資家向けIRセミナーin大阪



新田ぜうちん  
Connect and Create

(4977)

2026年2月14日(土) 参加費無料

株式評論家 高野恭壽氏の株式講演会

参加申し込みは [info@marketpress.jp](mailto:info@marketpress.jp) から!

主催: 株式市場新聞社 場所: 大阪産業創造館  
6階会議室(堺筋本町駅[出口1]徒歩3分)

13時開場、13時30分開演



## SBGが大幅続落

## 米オラクル株急落を嫌気

による負担を警戒。

11日、ソフトバンクグループ(9984)が大幅続落。大規模AIインフラプロジェクトで連携しているオラクル株が時間外で10%超急落していることが嫌気された。9日まで期的に買い戻ししていた向きの処分売りも出ているようだ。オラクルは9月10月決算のクラウド売上高が市場予想を下回り、巨額のAI投資



ソフトバンクGの日足チャート

## MacbeeP大幅減額

週末12日、Macbee Plane t(7095)が急落。26年4月期の業績予想について、連結売上収益で610億円から510億円(前期比1・3%減)、営業利益で56億円から37億円(同28・5%減)へ大幅に下方修正し

## MDVはTOB伝わる

週明け15日、メディカル・データ・ビジョン(3902)がストップ高。日本生命保険がTOBを実施し全株式を買い

取ると伝わった。生命保険との相乗効果を創出することが狙い。15日にも公表する。買収額は最大で600億円程度に

た。上位顧客の媒体費高騰、広告支出抑制、広告単価見直しなど業界固有の状況変化が影響している。

## ラクスルはMBO

ラクスル(4384)がストップ高。非公開化を目的にMBOを実施すると発表したことを受け、公開買付会社ゴールドマン・サックス系企業が実施するTOB価格1710円にサヤ寄せした。買い付け期間は今年12月1日から来年2月4日まで。短期的な業績変動に左右されることなく、抜本的な経営施策を実行するた

## 12月第3週の動意銘柄

## 公開価格36%上回る

## フィットクルの初値

フィットクル(469A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格22

## イベント通過で静かな取引か

先週の東京株式市場は反落しました。米国市場でブロードコムやオラクルなどAI半導体関連銘柄が急落したことが足を引っ張り、日経平均は50日線割れで下落トレンドに移ったようです。一方、TOPIXも反落とはなりましたが、15日に最高値を更新後、25日線までの押し目形成で済んでおり、上昇トレンドを継続しています。

9～10日のFOMCで0・25%の利下げ、18～19日の日銀会合では0・25%の利上げとなりましたが、どちらも事前に予想された通りの結果で織り込み済み。今年も立ち合い日数は残すところ7日となりましたが、大きなイベントを通過したことで大納会まで静かな取引で年の瀬を迎えることになりそうです。

来年は午年。相場格言からは注意が必要であり、また、年が改まると物色の流れも変わるケースが多いため、無理なポジション構築は避けるべきでしょう。

日々勇太郎

## 公開価格42%上回る

## Aibalinkの初値

Aibalink(5537)が東証グロース市場に新規上

なる見通しとしており、プレミアム期待が一気に高まった。公開価格42%上回る1850円で初値が生まれた。同社は流動性が低下している不動産の買取再販事業とコンサルティングなどの不動産関連事業を行う。

00円を36・4%上回る3000円で初値をつけた。パーソナルトレーニングジムの運営を行う。

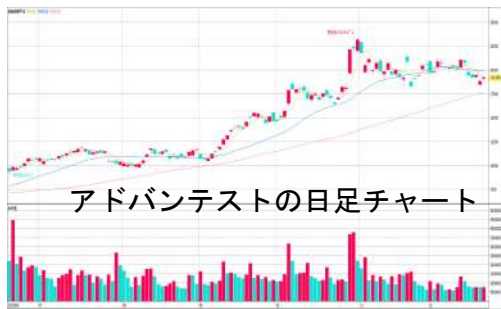
## colyディズニーと契約

coly(175)がストップ高。ウォルト・ディズニー・ジャパンとの取引契約締結を発表した。10月6日に開示した大手エンターテインメント企業との取引契約締結を明らかにした。のライセンス契約によるディズニーIPを使用したオリジナルゲームの企画、開発、運営を行い、26年1月にサービス開始を予定している。



# AI半導体が値崩す

## ブロードコムやエヌビディア急落



アドバンテストの日足チャート

15日、ソフトバンクグループ(984)、アドバンテスト(685)、KUS(65)、I(65)、25)、デイスコ(614)、東京エレクトロン(8035)やレーザテック(6920)などAI半導体関連銘柄が軒並み値を崩した。12日のニューヨーク市場ではブロードコムが11%

## アセンテックがS高

増額で営業益3.2倍大幅増配

16日、アセンテック(3565)がストップ高まで買われた。26年1月期の業績予想について、連結売上高で170億円から175億円(前期比20・0%増)へ、営業利益で22億円から27億5000万円(同3・2倍)へ上方修正、期末一括配当を23円から30円(前期15円)へ大幅に引き上げたことを好感した買いを集めた。仮想デスクトップソフトウェアとサービスが想定以上に好調に推移している。

## トウキョウベス期待届かず

TOKYO B A SE(3415)が大幅反落。26年1月期の第3四半期累計(2~10月)決算を発表、連結営業利益

を超える下落となり、エヌビディアを含め銘柄が売られたことか

## DOWA急伸し最高値

### 大手証券目標株価大幅引き上げ

17日、DOWAホールディングス(5714)が急伸、上場来高値を更新した。17日付で大手証券が投資評価を「中立的」から「強気」へ、目標株価を4700円から7700円へ大幅に引き上げた。PGMや貴金属価格上昇により製錬事業の収益見通しを増額、資本政策の改善などで株

で前年同期比63・8%増の10億5500万円となったものの、市場の期待値に届かず悲観売りを

ら、東京市場でも連想売りが波及した。

浴びた。従来の商品構成MDを4シーズンMD(春・夏・秋・冬)から、盛夏を加えた5シーズンMD(春・夏・盛夏・秋・冬)に変更。この新たな盛夏MDの展開により大きな成果を得ている。

主還元充実の可能性も指摘している。

## ERIHDストップ高

ERIホールディングス(6083)がストップ高。26年5月期の業績予想について、連結売上高で227億円から240億円(前期比21・4%増)へ、営業利益で28億円から45億円(同2・2倍)へ上方修正、年間配当で70円から110円(前期比60円)へ引き上げた。法制度改正で省エネ・構造関連の審査業務が拡大、M&Aにより事業領域が拡大する。

## 公開価格5%下回る

### NSグループの初値

NSグループ(471A)が東証プライム市場に新規上場、公開価格1480円を5・0%下回る1406円で初値が生まれた。同社は家賃債務保証業を展開する日本セーフティを傘下に持つ待ち株会社。

## 原油関連は先物下落

ENEOS(5020)や石油資源開発(1662)など原油

## チーバランス不正会計

18日、Abalance(3856)がストップ高。第三者委員会の調査結果報告書で、子会社のWBによる太陽光発電所建設案件の有償支給取引について、単なる誤謬ではなく、不正会計処理と評価すべきとされたことを受け、経営への不

関連が安い。WTI先物1月限は一時55ドルを割り込み、21年2月以降の安値に下落したことで採算悪化が警戒された。

## 公開価格9.4%上回る

### SBI新生銀の初値

SBI新生銀行(8303)が東証プライム市場に新規上場、公開価格1450円を9・4%上回る1586円で初値が生まれた。銀行とノンバンクの機能を併せ持つ総合金融サービスを展開する。

透明感化が売りがかさんだ。

## 公開価格13%下回る

### ミラティブの初値

ミラティブ(472A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格860円を12・7%下回る751円で初値が生まれた。同社はライブ配信プラットフォーム「Mirrativ」の開発・運営、周辺事業を行う。

グ  
ラ  
ッ  
ド  
キ  
ュ  
ー  
ブ  
(9561)

# AIアバターでIR支援 競馬×AI米子会社にも期待

動画も提案している。

一方、テクノロジー事業部では野球やサッカーなど

3Qは2ケタ増収計上

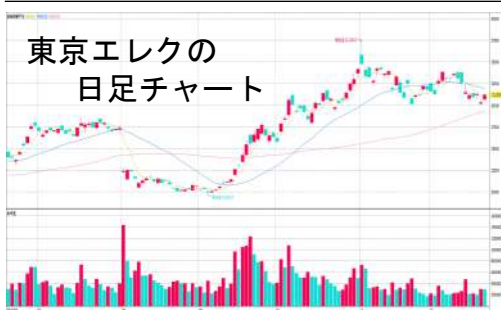
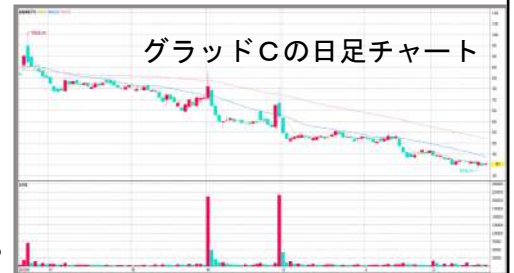
グラッドキューブ（9561）は2022年9月28日に東証グロス市場に上場、独自に開発したウェブサイト解析ツール「SiTest」を駆使したマーケティングDX事業部と「スポーツ×データ×AI」の力で新しい価値を創造するテクノロジー事業部の2本柱で展開している。

25年10月期は第3四半期累計（1～9月）の売上高で前年同期比10.8%増収の12億8200万円と2ケタ増収を計上、ネット広告や「SiTest」のツール販売、コンサルおよびサイト制作が好調で、計画比6.6%増と想定を大きく上回り推移。写真と音声から本人そっくりのAIアバターを生成して“伝わるコンテンツ”を作成するIR動

特選銘柄

画生成サービス「Avatwin」による革新的なIR

各種スポーツのAIによるデータ予想と解析、試合日程や結果、チーム成績や選手データなどあらゆる情報を配信するスパイア「SPAIA」を提供。「スポーツナビ」へのウィジェット提供やSPAIA競馬の「スポーツナビ」などでの配信開始により知名度が向上しており、今年5月21日には競馬×AIによる「グローバル競馬プラットフォーム」構築を軸にした米国子会社「SPAIA, Inc.」を設立、将来的にはグローバルなスポーツベッティング市場にも進出していく構想を持っている。



18日、ソフトバンクグループ（9984）やアドバンテス（6857）東京エレクトロ（8035）などAI半導体関連銘柄が大幅反落。オラクルのAIデータセンター計画への出資協議から、米投資会社ブル・キャピタル・アウル・キャピタルが撤退したことが明らかになったと伝わったことを受け、売りが強まった。オ

AI半導体大幅反落

AIDC計画を投資会社撤退

ラクルは主要投資会社の撤退による資金

公開価格61%上回る

辻・本郷の初値  
辻・本郷の初値  
辻・本郷の初値

を5.2%下回る1090円で初値が生まれた。同社は患者に最適な医師の選択を実現させるための情報を網羅的に集積した「ドクターズ・ファイル」を中心とした医療特化型プラットフォーム事業を行う。

公開価格7.4%下回る

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

パワエックスの初値

調達懸念から、株価が5%超下落、米関連株に売りが波及し、前日の米国株市場でナスダック指数が1.8%超の下落になった。

公開価格5.2%下回る

ギミックの初値

ギミックの初値

ギミックの初値

ギミックの初値

ギミックの初値

公開価格1150円

公開価格1150円

高野恭壽の  
株式情報

## これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

先週の日経平均は米国のナスダック市場の大幅下落の影響を強く受けて、AI半導体関連売りから18日に4万8943円まで売られる場面がありました。しかし、週末には半導体系銘柄を買い戻す動きがみられ、戻す動きにはなっています。

AI半導体系の中心銘柄のソフトバンクグループ(9984)は12月2日の安値1万5670円を割り込む1万5400円まで売られました。1万7000円台を回復しています。

ファナック(6954)も5700円では抵抗する動きに転じています。ナスダック市場の大幅下落で半導体系は下落幅を大きくしたのですが、

## ここからファナックは戻す

だことが下落に拍車をかけたといわれます。

しかし、ナスダックはマイクロン・テクノロジーが予想を上回る好決算を発表しています。また、11月の米国CPI(消費者物価指数)が2.7%と発表されました。予想の3.1%を下回ったことで1月の利下げが再び論議され、期待が高まって、ナスダックの下げ止まりを後押ししています。大幅戻りを押したといえます。

日銀の金融政策決定会合も通過したことと一連の懸念材料が後退したと思われるので、今週には日経平均は5万円台に復活しそうです。

ファナック以外の注目銘柄は、二重油(2607)、東京電力ホールディングス(901)、東日本(9020)、神戸物産(3038)です。

5万円回復し年末高へ

これはクリスマスを前にして利益確定を急い

## 松井証券

今こそ始めるデイトレード

## 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引  
コストプレミアム  
空売り独自  
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら  
marketpress.jpのパナーをクリック



# チャート から読む 騰落銘柄

## 日本精工 (6471)



12月11日に983.5円の高値を付けた後に調整も25日線の928円手前で下げ止まる。買い残も14万株調整減少で見直すタイミングか。高値奪回から21年以來の四ケタ奪回に期待したい。

## 伊藤忠商事 (8001)



12日に上場来高値9899円を付けたあと25日線レベルまで押し目を入れスピード調整完了。信用買い残の整理も進み、大勢上昇トレンドのなか、高値奪回から再び青空相場へ。

## 任天堂 (7974)



メモリー市況高騰によるコスト急増でスイッチ2の生産に暗雲が立ち込める。11月下旬までの1万3000円台揉み合いから19日に1万6500円まで急落。412万株超の買い残も重石で1万円割れが視野。

## 野村マイクロ (6254)



11月4日に戻り高値4155円を付けたあと5日線に上値を抑えられ下値模索が続く。底割れ状態で52週線も割り込む。押し目買いに積み上がった信用買い残が重しで、まだ下げ止まる気配はない。



# 星野三太郎の 株街往来

## ～膨大な電力消費～

大納会  
に日経平均が5万円に乗  
せて引けるかどうかは  
微妙になってきたが、年  
初に3万円だったことを  
考慮すると、今年はかな  
り強い1年だった。その  
上昇を牽引してきたのは  
AI関連銘柄だが、膨大  
な電力消費量など負の部  
分が問題視され、流石に  
値幅を伴った調整をする  
銘柄も増えてきた。

気自動車（EV）も同じ。化石燃料を使わずにエ  
コロジーとはいいが、充電する電気の発電に火力  
を使っているのは本当にエコロジーとは言えるのか  
は疑問だし、新設される発電所が原発では、事故  
時のリスクや核廃棄物の処理が問題になる。AI  
により労働コストが改善されたり、EVでガソリ  
ンを使わなくなったと利用者は思っているが、そ  
れは自己満足に過ぎない。

それを稼働させるために必要な電力はどのよう  
な形で発電しているのかを理解しなければならな  
い。膨大な電力消費が環境破壊に繋がっているこ  
とを改めて見つめ  
直す必要がある。  
行き過ぎたAI投  
資やEVの過剰生  
産は一度立ち止ま  
って考える必要が  
ある。



## New product

宝酒造

### 超強炭酸の飲みごたえ 「焼酎ハイボール」〈強烈コーラ割り〉



「焼酎ハイボール」  
〈強烈コーラ割り〉

宝ホールディングス（2531）傘下の宝酒造は、“タカラ「焼酎ハイボール」〈強烈コーラ割り〉”を、数量限定で発売している。焼酎ハイボール宝焼酎ならではの飲みごたえと、キレ味爽快で辛口な味わいに加え、糖質ゼロ・プリン体ゼロ・甘味料

ゼロといった機能面でも好評を得ている。

強烈コーラ割りは、強炭酸が特長のタカラ「焼酎ハイボール」の中で、最も強い炭酸が楽しめる「強烈シリーズ」の数量限定フレーバー。大衆酒場では、甲類焼酎を“壇入りコーラ”で割った飲み方が人気を博している。強烈コーラ割りは、特製スパイスエキス由来の爽やかな香りと、“壇入りコーラ”を彷彿とさせる、超強炭酸の飲みごたえが特長。参考小売価格（消費税抜き）は350ml／159円、500ml／217円。

大阪王将

### 香る五香粉が食欲そそる 「魅惑の五香麻辣湯」期間限定



麻辣湯

で合わせて、豚の旨みをベースにフワッと香る五香粉が食欲をそそる味わい。お好みで選べるのは、麺の種類と辛さ。麺は春雨と中華麺の2種類から、辛さは3段階から選べる。ボリュームアップしたい場合は、えび、豚肉、水餃子をお好みでトッピング追加が可能。自分好みにカスタマイズする楽しさと、そのままでもおいしく味わえる一杯。

イトアンドホールディングス（2882）グループの大阪王将は、餃子専門店「大阪王将」で、「魅惑の五香麻辣湯」を期間限定で発売している。

豚肉と白菜・小松菜・青梗菜・人参・キクラゲなどたっぷりの野菜を加え、大阪王将で人気の大粒水餃子の特製スープ

## 潮流

## 「管理された低金利」維持

## 0.25%利上げの意味と成長相場

marKet / bAnk

19日の日銀金融政策決定会合では、政策金利が0.25%引き上げられ0.75%となった。

一方で注目されたのが、高市総理が植田日銀総裁に対し「景気とインフレの両方をしっかり見て判断してほしい」と発言したとされる点だ。この言葉は単なるリップサービスではなく、積極財政によって芽吹き始めた景気を、拙速な利上げで冷やしたくないという明確な政治的意思表示と捉えるべきだろう。

もっとも、高市政権は今回の0.25%利上げ自体を止める構えではない。石破政権時代に「金利正常化」が既定路線として閣議決定され、市場もそれを前提に織り込んできた経緯があるためだ。今回の利上げは、過去の政策判断を整理するための「最小限の調整」にすぎず、ここから連続的な利上げが始まると見るのは早計である。

今後の焦点は、高市政権と日銀の力関係だ。高市政権は名目GDP拡大と実質賃金上昇を最優先に掲げ、金融政策には成長を下支えする役割を求めている。一方の日銀も、異次元緩和からの出口を意識しつつ、足元のインフレがコストプッシュ型であり、賃金と需要の好循環が十分とは言えない現実を理解している。結果とし

て日銀は、「利上げはできても、続けることは難しい」立場に置かれる可能性が高い。

来年にかけた政策金利のメインシナリオは、0.75%での据え置きだ。仮に追加利上げがあるとしても、賃金と成長が明確に確認された場合に限られ、上限は1.00%程度にとどまるだろう。利上げによる景気減速や財政負担増が意識されれば、追加利上げは断念される可能性もある。国債市場は金利上昇は利払い費の増加を通じて財政余地を圧迫する。積極財政を掲げる高市政権にとって、金利上昇は政策の自己否定につながりかねない。

そのため、長期金利は1%台前半で管理され、日銀も「管理された低金利」を維持する公算が大きい。株式市場にとって今回の利上げは悪材料の出尽くしとなりやすい。銀行株は金利正常化を織り込み済みである一方、積極財政の恩恵を受ける内需株や、利上げ一巡が追い風となるAI・半導体などの成長株が再評価されやすい。市場は「次の利上げ」ではなく、「利上げが止まる世界」を織り込み始めるだろう。

そのため、長期金利は1%台前半で管理され、日銀も「管理された低金利」を維持する公算が大きい。株式市場にとって今回の利上げは悪材料の出尽くしとなりやすい。銀行株は金利正常化を織り込み済みである一方、積極財政の恩恵を受ける内需株や、利上げ一巡が追い風となるAI・半導体などの成長株が再評価されやすい。市場は「次の利上げ」ではなく、「利上げが止まる世界」を織り込み始めるだろう。

潮流銘柄はソニーグループ(6758)、トヨタ自動車(7203)、オリックス(8591)。

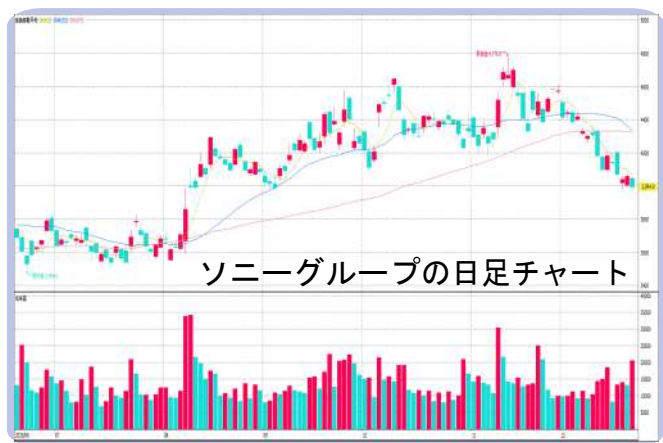
を  
行  
う。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール  
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

内需、AI半導体など再評価







## 敏腕先物ディーラー

## ハチロクの裏話

ハチロクのプ  
ロフィール  
証券アナリス  
トから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約1329円安となり4週ぶりに反落、週足陰線となった。AI関連株の動きが弱く、日経平均は大幅安となったが、TOPIXは月曜日に史上最高値を更新しており、AI関連株から内需株へのシフトが行われ、投資家の大きな資金流出とはなっていない。

## 注目の日銀金融政策決

定会合では19日に政策金利の0・25%引き上げを決めたが市場には織り込まれており、発表も波乱要因とはならなかった。今回の利上げは「市場との対話」が非常にスムーズにいった例であろう。利上げは来年も続く見通しだが、市場との対話を重視する植田総裁の下でなら波乱はなさそう

今週は大きなイベント

通過で出尽くし感が漂う方向性に欠ける展開となろう。世界はクリスマス週を迎え、週末にかけ市場が休場になる国が多い。そのため個別株物色の動きになると思われ、指数は方向感に欠けるだろう。

日経平均は5日移動（4万9514円処）を

(4万9514円処)や25日



## 世界はXマス休暇

## TOPIXの日足チャート



4万線動3がてて下週処1万均移や動平  
 49(平週、引回末)69線動25  
 円14均移1るけっにを円8(4平日線

処) が下値抵抗ラインとして意識されている。13週移動平均線を引け値で下回って引けない限りは上昇相場は継続していいよう。

また、最近はボリンジャーバンドの▼2σ(4万8514円処)と△2σ(5万1282円処)内で推移しておりバンドも収斂傾向にある。今週はボリンジャーバンドの△1σ(5万0590円処)と▼1σ(4万9206円処)の間で推移すると予想する。

今週のレンジは4万9200円～5万0500円を想定する。  
 (ハチロク)

(ハチロク)

指数より個別株へ

13週線割れなければ上昇継続

## 日経平均の週足チャート





## 記者の視点

## 相場見通し

## 新年へ向け銘柄選別

## Xマス休暇入りで小動きか？

12月第3週の東京市場は米国の相次ぐ経済指標発表や日銀金融政策決定会合への警戒、ニューヨーク市場でのテック関連売りから18日には4万9000円を割れる展開になった。週末19日に日経平均は4万9500円台まで戻し落ち着きを取り戻した。

AIに絡むテック関連については世紀の空売り帝王と言われるマイケル・バリー氏が「OpenAIは次のネットスケープで消える運命にあり、膨大な資金を流出させている」と批判的なコメントをしたことで衝撃が走った。しかし、半導体製造装置大手マイクロンテクノロジが第1四半期で前年同期比56・7%の大幅増収と強気の見通しを発表したことでハイテク全般への懸念は後退した。AIサーバー向けの需要急増によるメモリ価格の驚異的高騰からPCメーカー各社は大幅な値上げを告知している。半導体関連大手は大幅増産が急務となっておりことから、メモリ製造会社を中心に業績拡大への不安はないだろう。

一方、日銀金融政策決定会合では予測通り0・75%への利上げを実施し、19日引け後の会見で植田総裁は目標の中立金利について明言を避け、慎重かつ機動的に対応すると発言し、日銀の今後の方針についての不安は後退した。

先週は新規上場が6銘柄で大型上場が相次いだことや税金対策の売りも断続的であったが、それも峠を超えたようだ。日経平均VIXも30を超えていたが、19日大引け時点で27・31まで低下しており、過度な警戒は無くなっている。加えてニューヨーク市場は先物決済日であるクワドルプル・ウィッチングを通り過ぎ、需給面を含めて一連のイベントは通過した。今週はクリスマス休暇突入か

## 当面のスケジュール

- ・23日 米7-9月期GDP速報値  
米11月鉱工業生産・設備稼働率
- ・24日 10月29・30日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨  
11月企業向けサービス価格指数
- ・25日 11月全国百貨店売上高  
英欧米アジア各国クリスマス休場
- ・26日 11月失業率・有効求人倍率、12月東京都区部消費者物価  
11月商業動態統計、11月鉱工業生産  
英欧アジア各国ボクシングデー休場
- ・29日 12月18・19日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
- ・30日 大納会
- ・31日 ガソリン税の旧暫定税率を廃止  
中国12月製造業PMI、中国12月非製造業PMI、中国12月コンポジットPMI  
12月9・10日開催のFOMC議事録

ら売り買いとも欧米投資家の売買は減少すると思われる大きな株価変動はないと見る。指数的には小動きが予想されるが、日経平均が5万円前後を維持すれば、クリスマス休暇明けから新年相場に向けて仕切り直しの期待したい。

個別ではAI関連の半導体やフィジカルAIを筆頭に今年の相場をけん引した銘柄の選別したい。12月末が終われば第3四半期決算接近から業績面での再点検も必要だろう。個別では日本マイクニクス（6871）やキオクシアホールディングス（2854）、フアナック（6954）など。

安倍元首相銃撃、山上被告に無期懲役が求刑された。検察は善悪の判断できる社会人であり、被告の生い立ちに関係はない、社会を変革するためでも暴力行為は法治国家では許されないと求刑の妥当性を強調した。ただ、旧統一教会に翻弄され、家庭を崩壊させられた被告の悲惨な半生に同情する人は多いだろう。事件が社会に与えた影響も含め、裁判員は難しい判断に迫られると見られている。

株式市場ではAI半導体相場が難しい局面を迎えた。個別に状況を判断する必要

## 編集後記

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。